



虐待を受けた母が娘に虐待を

Cさん親子の場合 (30代女性、娘中学生)

Cさん親子
愛着障害
PTSD

子どもの頃は
お母さんにいつも
怒られていた…

赤ちゃんが生まれて
本当にうれしかった

なのに…
同じことをしてしまう

お母さんのこと
見捨てないで
ほしい…

私のごとき
どうでもいい
お母さんの
役に立つお
頑張るね

たいてい泣いて
くり返し…

こちゃん 今日
学校お休みな…

心配した学校の先生が
三家クリニックに連絡

三家クリニックの
ワーカーさんから連絡がきて
はじめて話せました

地域の学校や施設と
連携しています

Cさん親子のコメント

感情が高ぶると、自分を抑えられず、子どもにひどいことをしていた。わかっていても止められなかった。今は、治療のおかげで、少しずつ自分を認められるようになってきた。

お母さんがよく笑うようになってよかった。学校でも友達ができ、行くのが楽しい。わたしは将来、看護師さんになりたいと思っている。

子どもの頃の生きづらさやショックな体験は、心に大きな影響をあたえ、大人になってからもさまざまな形で現れることがあります。必要なケアが受けられずつらさに耐えることが当たり前になると、自分の気持ちに気づきにくくなったり、人が信じられず助けを求められなかったり、気持ちをコントロールできず人に当たってしまうこともあります。

「虐待」は世代間連鎖を生むと言われています。もちろん人によりますが、望んでいなくても、自分の育てられ方と同じように子を育ててしまうのです。

このケースは、母自身が被虐待児で「愛着」と「トラウマ」の問題を抱え、とてもつらい思いで育児をされています。当院では、親、子ども両方の生きづらさの解消を目指して、専門職がチームでケアにとり組んでいます。

母親は…

はじめに
まずは
診察を
うけました

デイケアで
同じ母親同士で
話すことができ

訪問看護で
助けを求め
られるようになり

心を落ち着かせる
対処法を
学んだり

カウンセリングで
自分を知って
いき…

治療で
自分を大切にすること
がわかりました

子どもは…

同じように学校に行っていない子たち
同じだ!!

好きなことをしたり
絵を描いたり

いろんな大人の人が見守ってくれて
自分の気持ちに気づけたよ

学校とワーカーとで
密に連絡を
取り合います

いってきま〜す
学校に
行けるようになった

